



医療連携室だより

公立置賜総合病院医療連携室 ☎0238-46-5000 内線 1902,1409

特集:血液疾患の 病診連携

輸血部長
佐藤伸二先生

血液疾患の病診連携

輸血部長 佐藤伸二

当院の血液内科は開業当初は週1回の外来のみで入院患者は他分野の先生方に診ていただいた。

私が一人で赴任してすぐも、ときに20人の入院患者を抱え、かつ本院とサテライトの外来を行き来するという日々が続いた。一人では絶対に不可能な仕事量で「過労死」や「立ち去り型サボタージュ」が頭をかすめたほどだが、曲がりなりにも血液疾患の診療を停滞させずに来ることができたのは、院内の先生方が折々に役割を代行してくれたこと、まる1日かかる外来の間の病棟の留守番や遅ればせながらの二人目の専門医を大学医局が派遣してくれたこと、近隣病院での血液内科の新設などがあったからこそと思う。いわば院内連携、病病連携のおかげともいえる。

病診連携はどうか。入院患者の多くは白血病、悪性リンパ腫などの造血器腫瘍や再生不良性貧血、溶血性貧血といったまれな難病だが、ほとんどは地区内の病院と開業医の先生方からの紹介で、確かにこの地域の病診連携は機能している。



しかし、病から診への患者の流れがほとんどなく、血液疾患診療での病診連携は一方通行状態にある。

急性白血病や悪性リンパ腫は治療を終えてさらに4-5年間の観察が必要で、自ずと外来患者数が増加していく。観察の後半を「かかりつけ医」にお願いできれば双方向の病診連携になる。

そうならない原因のひとつは、血液疾患は一般的でなく(専門性が高く)診てもらえないだろうとのこちらの勝手な思い込みかもしれない。これを機にもっと紹介してみようと思う。

もう一つは、いざ依頼しようとしても意外にその「かか

りつけ医」がないことだろう。

血液疾患に限らず病診連携には日常的な健康の問題を気軽に定期的に相談できる医師の存在が不可欠だと思うが、現状はそうではない。そのことが確立されれば、今ある病院の過重な負担が大分軽減するのではないか。かぜや検診での軽微な異常で病院の外来を訪れる方々があとをたたない。

内緒の話だが、最近私はそんな患者さんに「日本の医療問題」としてこの話をして、時々患者様の気分を害している。しかし、受診者の意識が変ること、さらに「診」の先生方が地区住民の日常的な健康管理に意識的に取り組み、家庭医として、より一層の役割を担い機能することが、病診連携にとっても基盤であり必須条件ではないか。

病棟の朝。申し送りを終えて電子カルテに向かう深夜明けの看護師さんのハイな笑い声に目を覚まされながら、昨日の外来の忙しさを思い出してそんなことを考えた。

第18号内容:

セカンドオピニオン関連
記事 2頁

職員異動報告3頁

当院DMAT隊報告記
事 3頁下

相談支援センターから
のお願い 4頁

お知らせ 4頁



セカンドオピニオンの対象外となる場合

主治医に対する不満、医療過誤及び医療訴訟に関する相談
過去の治療の妥当性
他の医療機関への紹介等を求める相談、転院を前提とした相談
相談に必要な資料の提出が得られない場合
医師を指定するセカンドオピニオン
その他セカンドオピニオンが困難又は不相当と認められる相談



セカンドオピニオンを開始しました

セカンドオピニオンとは今受けている診断や治療方針について患者さんあるいは患者さんの意思を代行できる家族の方が、主治医以外の医師から意見を求めることです。

それにより患者さんが診断や治療方針について納得

あるいは決断することに役立てていただく制度です。

セカンドオピニオンでは、治療・検査等は行なわず、患者さんがお持ちになった主治医からの診療情報提供書・レントゲンフィルム等の資料をもとに当院の専門医が意見を申し上げます。

セカンドオピニオン(第二の意見)は、全国的に広がりを見せており、取り組む病院が増えてきました。当院でも平成19年7月1日より実施し、総ての診療科で対応を行います。



セカンドオピニオンの対応について

セカンドオピニオンは、求める患者さん及び家族の方の思いや、おかれている現状(病状)が絡みあうので、慎重に対応することが必要です。

申し込みについて
直接申込むかまたはファクシミリでも可能ですが、セカンドオピニ

ンを行う前に、出来るだけ直接面談させていただきます。その際、患者さんと家族の方には共通認識していただくために同席して説明を聞いていただきます。(医療機関が仲介であっても同様に対応させていただきます。)

相談会場は資料が多いこともあり、比較的ゆったりした場所を確保します。

相談上の留意点

相談時間は、原則1時間以内です。
口頭説明となります。
相談中の録音はご遠慮願います。
相談場所は当院診療科診察室、または病棟面談室です

セカンドオピニオンの申し込み

完全予約制です。申込書を相談支援センターに提出してください。セカンドオピニオンに関する問い合わせは

医療連携室内 相談支援センター セカンドオピニオン窓口へ 0238(46)5000 (内線 1902)

問い合わせの受付は、月曜から金曜日(祝日、年末年始を除く)
受付時間 午前9時から午後3時

持参していただく資料

患者の症状等についての主治医が作成した診療情報提供書
レントゲン・CT・MRIなどの写真・画像データ
その他検査結果などで参考になるもの
健康保険証、当院診察カード(お持ちの場合)

当院から他医療機関へセカンドオピニオンを求める場合

当院入院中または外来加療中の患者さん及び家族の方が当院以外の他医療機関のセカンドオピニオンを求める場合、該当病院の情報について説明をいたします。

費用について

セカンドオピニオンは保険対象外となります。1件につき21,000円です。

職員の異動について

新年度に入ってから下記のとおり勤務医の異動がありましたので報告します。

着任日	職名	氏名
5月1日	研修部研修医	舟山 哲
同上	同上	本田晋太郎
6月1日	診療部内科医師	青柳拓郎
6月16日	診療部産婦人科科長	手塚尚広
同上	診療部小児科医師	笹 真一
7月1日	放射線科医師	渡會文果

退職日	職名	氏名
4月30日	診療部循環器科医師	石野光則
5月31日	診療部内科医師	奥山英伸
6月15日	診療部産婦人科医師	山谷日鶴
同上	診療部小児科医師	奥山志野

当院DMAT隊 中越沖地震 派遣報告 派遣期間 平成19年7月16日～18日

7月16日(月)新潟県で発生した中越沖地震に、当院DMAT隊も派遣されたので、その経過について報告します。

当院DMAT隊員で派遣になった職員は、佐藤光弥隊長、小田良子、梅津愛、大道寺信之、吉田貴海以上5名です。(橋本敏夫隊員は今回不参加)総務課の佐野課長補佐は派遣元本部に待機となりました。

7月16日10時35分待機要請があり、12時には置賜DMAT隊の待機が完了。12時30分に出動を決定し、資機材等を準備し、13時45分当院救急車で出動しました。



国道113号を經由して北陸自動車道を通りましたが、陥没や隆起、ひび割れがひどい状況にありました。



18時J A新潟厚生連刈羽郡総合病院(柏崎市 災害拠点病院指定)到着しました。病院周辺のライフラインは全て遮断された状況にありましたが、拠点病院内は非常電源が確保されていました。全国から参集したDMAT隊は30チーム以上。18時40分にミーティングがあり、患者のピークは過ぎており、域外搬送はヘリ・救急車等で概ね終了しているとのことでした。



17日は、参集要請の連絡を得て、拠点病院に待機し、正午より救急患者の診察を実施。処置に必要な物品は準備されていましたが、地震により院内カルテは整理できていないことから、新たにカルテを起こして対応しました。

午後2時から、柏崎市内の被災状況及び救護所に向かい、海辺近くの家屋の損壊を多数確認しました。道路も陥没、隆起が激しい状況でした。



17時より24時まで当院DMAT隊が救急搬送以外の患者さんを診察しました。来院する患者数もおちつきつつありました。



18日は、地震発生から48時間が経過したことから、全DMATの活動の終了と解散の指示が出され、当院DMAT隊は、13時に置賜総合病院に到着しました。

なおDMAT隊は自己完結型であるため、被災地においての支援活動時の服装から、自分たちの食事や宿泊施設の確保、またそれらにかかる一切の経費等は、自ら賄わなければならない事と、移動車両が当院救急車両のみであることから、資器材が搭載されている狭い車両の中で、隊員が長時間乗車しなければならない事などから、派遣隊員の苦勞と疲労は相当なものだったようです。

当院DMAT隊のみなさんお疲れ様でした。



公立置賜総合病院DMAT隊

中越沖地震：

発生日時 7月16日(月)10:13頃
震央地名 新潟県上中越沖(新潟市の南西60km付近)
震源の深さ 約17km
規模 マグニチュード6.8
人的被害 死者 11名、負傷者(重症) 175名、(軽症) 1,809名
住家被害 全壊 1,001棟、半壊 3,267棟、一部破損 34,318棟、建物火災 1棟



DMAT(Disaster Medical Assistance Team)

：大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に駆けつけ(概ね48時間以内)、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームのこと。

広域医療搬送、病院支援、域内搬送、現場活動等を主な活動とする。

公立置賜総合病院

〒992-0601
山形県東置賜郡川西町
大字西大塚 2000 番地

TEL:
0238-46-5000

FAX:
0238-46-5722

E-MAIL:
renkei@okitama-hp.or.jp

置賜広域病院組合
公立置賜総合病院
www.okitama-hp.or.jp

お知らせ

**CT増設工事に伴う
検査停止期間について**

CT増設にあたり撮影室の移設工
事及び機器の搬入・搬出を行うため下記
検査について停止いたします。
関係各位のご理解とご協力をお願
い申し上げます。

- (検査停止)**
核医学検査 7月 1日～10月20日
マンモグラフィ検査 9月15日～10月 3日
骨密度検査 9月15日～10月 3日
パノラマ 9月15日～ 9月18日
一般撮影(3番) 11月 1日～12月28日

**がん関連図書コーナー
を開設しました**

お陰さまで、がん関連図書
の寄贈をいただき、7月13日
(金)に、6階病棟食堂にがん
関連図書コーナーを設置いた
しました。ご活用くださるようお
願いします。

また、さらなる関連図書の
ご寄贈を切にお願い申し上げ
ます。



相談支援センターからのお願い

7月末現在で、36件
の相談がありました。
主に、患者さんの家族
の方からの相談が多い状
況です。

医療施設や医療者に対
して、相談したことが漏
れることの心配や担当医
師に対して遠慮の言葉が
聞かれます。

相談支援センターを知
らずに来院されているこ
ともあり、そのため職員
のみなさんから相談内容
に関わる指導と協力は勿
論のこと、センターの周
知についてもご配慮くだ
さるようお願いします。

**お客様休憩室
ミニギャラリー**

現在、お客様休憩室(ミニ
ギャラリー)では、コロニー
希望が丘まつかぜ荘の皆さ
んによる絵画作品が開催さ
れております。お気軽にご
鑑賞くださるようご案内し
ます。

公立置賜総合病院への交通手段

長井市市営バス時刻表

白兔西集会所発	807 1230
蔵京発	755 1020 1320 1540
総合病院着	845 900 11:10 13:23 14:10 1630

総合病院発	9:10 9:35 12:15 13:33 14:35 16:45
白兔西集会所着	10:28 14:26
蔵京着	10:00 13:05 15:25 17:35

各駅停車します。問合せ先 長井市企画調整課企画係
(84)2111 内線341・342

南陽市 市内循環バス

(南陽病院始発の西部地区バスをご利用ください)

南陽病院発	830 1005 13:15 14:25 15:55
総合病院着	853 10:28 13:38 14:48 16:18

総合病院発	9:10 10:40 12:35 13:50 15:10 16:30
南陽病院着	9:33 11:03 12:58 14:13 15:33 16:53



「アマンノト」は「ほほんのカー」をご利用ください。
各利用者自宅から乗り合いでご利用できます。
飯豊デマンド予約センター 86-2220

川西町から

デマンド交通をご利用ください。
各利用者自宅から乗り合いでご利用できます。
川西デマンド予約センター 42-3288

**鉄道利用の場合
(今泉駅発車時刻)**

米坂線

小国行き(下り)
6:39 11:04 12:46 16:39
19:03 21:11
米沢行き(上り)
7:02 8:13 8:51 9:25 11:04
14:00 15:14 16:18 17:54
18:35 19:25

フラワー長井線

長井・荒砥行き(下り)
7:35 8:10 9:23 11:23 12:50
13:56 15:04 16:42 17:56
19:06 20:15 21:14
赤湯行き(上り)
6:18 7:03 8:10 8:54 10:54
12:38 13:56 15:04 16:43
17:56 19:06 20:15